

令和4年度北海道科学技術奨励賞受賞者功績概要

氏名	大栗 敬幸（42歳）		
	※ 年齢は令和4年4月1日現在		
所属・職名	旭川医科大学 准教授	現住所	旭川市
<p><功績名></p> <p>「癌細胞の免疫逃避システムに着目した新規癌免疫治療法の開発研究」</p> <p><功績の内容></p> <p>約40億年前に地球に誕生して以来、生物は地球環境の変化に適応し生き延びながら現在の私たちを含む様々な種へと進化してきた。このことから分かるように、私たちを構成する細胞は環境に適応する能力を持ち合わせている。癌細胞は正常細胞が遺伝子変異を蓄積して生じる『異物』で、通常であれば免疫細胞の働きによって排除されるが、癌細胞はこの環境適応能力を活用して自らの性質を変化させることで免疫細胞の攻撃から逃れ増殖することができるようになる。例えば、免疫系が癌細胞を異物として認識するには、貪食細胞が癌細胞を取り込んでその情報をT細胞に伝える必要がある。しかし、癌細胞は1) 貪食細胞に食べられないように偽装する、2) T細胞に見つかりやすい情報（癌抗原）を隠す、ことが明らかになっている。</p> <p>氏は、これらの癌細胞の免疫逃避システムに着目して、貪食細胞の癌細胞貪食能力を高めることによってT細胞への癌細胞情報の伝達を促進し癌細胞の増殖を抑えるという新しい癌免疫療法の開発につながる知見をマウスモデルを用いた基礎研究によって得た。また、癌細胞自身が隠しておきたい目印を複数明らかにし、現在までに日本を含む4カ国で特許が成立している。</p> <p><経歴></p> <p>（略歴）</p> <p>平成15年 3月 北海道大学理学部生物学科卒業</p> <p>平成17年 3月 北海道大学大学院医学研究科 医科学専攻修士課程 修了</p> <p>平成20年 4月 日本学術振興会特別研究員（DC2）</p> <p>平成21年 3月 北海道大学大学院医学研究科 病態制御学専攻博士課程修了、博士号（医学）取得</p> <p>平成21年 4月 日本学術振興会特別研究員（PD）</p> <p>平成21年 6月 北海道大学遺伝子病制御研究所特任助教</p> <p>平成23年 4月 米国ピッツバーグ大学博士研究員</p> <p>平成26年 7月 旭川医科大学助教</p> <p>平成29年 6月 旭川医科大学講師</p> <p>平成31年 4月 旭川医科大学准教授</p> <p>～現在</p> <p>（受賞歴）</p> <p>平成29年 6月 日本がん免疫学会より「日本がん免疫学会若手研究奨励賞」受賞</p> <p>令和 元年 9月 （一社）日本癌学会より「日本癌学会奨励賞」受賞</p> <p>令和 元年10月 （公財）北海道科学技術総合振興センターより「ノーステック財団理事長賞」受賞</p>			